

(3)各プロジェクトの4年間の活動と今後の展望

各プロジェクトは、私たちが目指す環境ビジョンの実現に向けて、プロジェクトごとに目的とする「理想の街」を掲げて環境保全活動に取り組んできました。これまでの取り組みを振り返りとともに、今後の行動計画と数値目標を設定しました。

プロジェクト	
I-1	市民の森プロジェクト 18-19
I-2	松代オオムラサキの里プロジェクト 20-21 (旧名：小生物の育成環境保全プロジェクト)
I-3	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト 22-23
I-4	生態系豊かな、水に親しめる川づくりプロジェクト 24-25 (水環境保全)
I-5	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト 26-27
II-1	生ごみ削減・再生利用プロジェクト 28-29
III-1	太陽エネルギー普及促進プロジェクト 30-31




これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	市民の森づくりプロジェクト		
理想の街（目標）	<p>四方を山に囲まれた長野市には、手入れされた里山がありそこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち</p>		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数（年間・延べ人数）	900人	179人（活動休止中）
	「市民の森」の設置数（目標年度までに設置する数）	2	1
	「市民の森」として整備する面積（目標年度までに設置する数）	10ha	4.5ha
活動実績	<p>「理想の街」に向けて成果のあったもの（具体的な活動実績など）</p> <p>(1) 市民の森づくり</p> <p>ア ボブスレー・リュージュパークの森の整備が進み、明るさを取り戻した森になってきた。また、市民がゆっくり散策のできる遊歩道の設置ができた。</p> <p>イ「市民の森」という概念を多くの市民に持ってもらうことができた。</p> <p>ウ さまざまなイベントを実施し多くの市民に参加していただけた。</p> <p>エ 林業講座などは 300名近い受講生を輩出でき、より安全な整備活動が広まった。</p>		
できなかつたこと	<p>(1) 第2、第3の「市民の森」構想が進んでいない。</p> <p>(2) 「市民の森」の維持管理に地元との協力体制が進みつつあるが、まだまだボブスレー・リュージュパークの森林部分の整備活動に地元との関わり合いは希薄である。</p> <p>(3) 「市民の森」にまつわる多くの可能性を引き出したり、活用したりできていない（カルチャー教室やサークル活動等）。</p>		
課題	<p>(1) 「ボブスレー・リュージュパークの森の整備」に力を注いだため、森の整備が進み、整備事業にある程度の結果が見えてきたため、会員のモチベーションの維持が難しくなっている。</p> <p>(2) 他団体との交流や、もっと多くの人材との接点が少ない。</p> <p>(3) 地元の人材育成につながっていない。</p> <p>(5) 事業者との連携が進んでいない。</p> <p>(6) 積極的に活動する会員が増えない。</p>		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名		市民の森づくりプロジェクト	
理想の街	<p>四方を山に囲まれた長野市には、手入れされた里山がありそこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち</p>		
目標	<p>目標</p> <p>四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。多くの市民は、この里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができる。そういう森を造っていく。</p>		
行動計画	<p>行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各作業の安全対策の再検討を実施し、より一層の安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業を進める。 ・「市民の森」を楽しく利用しながら、森林整備、林業体験、自然観察会、山遊び、学習会を企画・実施し、市民に広める。 ・「市民の森」を市内に複数設置するための調査、折衝などを行う。 ・多くの他団体や、個人、事業者との連携を図り、事業を展開する。 		
画数	指 標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	179人 (活動休止中)	600人
目	「市民の森」の設置数 (目標年度までに設置する数)	1	2
標			



これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名		松代オオムラサキの里 (旧名:小生物の育成環境保全プロジェクト)	
理想の街(目標)	<p>身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・メダカ・クワガタ・カブトムシ)など生育しエドヒガン・ヤマモモが咲く豊かな自然環境の保全を目指すとともにオオムラサキ以外の小生物(ジャコウアゲハ・キアゲハ・アサギマダラ等)の生息環境を作る。</p> <p>また、「松代千本桜大作戦」を推進し松代全体を「マツシロベニエドヒガン」で覆い尽くす環境を目指す。</p>		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	1,000人	423人
	各種事業やイベントの開催数	10件	30件
活動実績	<ol style="list-style-type: none"> オオムラサキ観察会の実施 松代町内の小学校6校を対象にオオムラサキ観察会を実施した。また、一般向けの観察会も毎年実施している。 自然学習林に生息する生物の調査 学習林に赤外線センサーカメラを設置し、生息する動物を調査している。撮影した写真、動画データを解析し、生息状況を集計している。 カブトムシ・クワガタムシの育成 カブトムシ・クワガタムシの育成床を設置した。令和2年にはカブトムシ50匹程の発生を確認した。 フクロウの巣箱設置 フクロウの生息が確認できたので、フクロウの定着を促すため巣箱を設置した。未だ営巣は確認されていない。 自然学習林の整備 オオムラサキが生息しやすい環境を維持するため、巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森になるように整備を行っている。 小学校にオオムラサキ育成エリア設置 松代町内の各小学校に生えているエノキにオオムラサキ育成エリアを設置し児童が随時観察できる環境づくりをしてきた。子供たちが関心をもつように、飼育エリアの拡充と定着を図る。 松代千本桜大作戦 マツシロベニエドヒガンを種から育苗し、松代町内を中心に苗の配布を行った。令和2年までに1,000本の苗の配布を完了した。 		
できなかったこと	<p>オオムラサキの生育環境の改善として水場を設置したいと考えており、ビオトープの作製を計画しているが、まだ実現できていない。</p> <p>オオムラサキ観察会には多くの人が参加してくれるが、それ以外は来園者は少なく1年と通して自然観察ができるような環境にはなっていない。</p>		
課題	<p>メンバーの高齢化により、里山整備作業が厳しい状況である。高齢者集団の中に若い人たちが参画しやすい組織のありかた、雰囲気作りに取り組む必要がある。</p>		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名		松代オオムラサキの里 (旧名:小生物の育成環境保全プロジェクト)	
理想の街	身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カブトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキを含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. オオムラサキが生息しやすい環境づくりを行い、オオムラサキの保護を行う。巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森にする。 2. オオムラサキを含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築を行う。 3. カブトムシ・クワガタムシの育成床を設置し、生育しやすい環境づくりを行う。 4. センサーカメラを設置し、竹ノ入に生息する動物の調査を行う。危険動物を含め生息状況を把握し、自然観察園の構築に役立てる。 5. 生態系の頂点にいるフクロウの定着を促すため巣箱を設置する。 6. 各小学校のエノキを使いオオムラサキ育成エリアを設置し、児童がオオムラサキの成長を観察できる環境を整える。 7. 自然学習林を周回できる観察道の整備を行う。 		
行動計画			
画面数	指標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	多くの人が自然観察に訪れるように、自然学習林の環境整備を行う。	プロジェクト参加人数 423名	プロジェクト参加人数 1,000名
目標	自然学習林を周回する観察道を設置する。	未実施(0%)	観察道の設置(100%)
標			
			
	オオムラサキ観察会	オオムラサキ	


これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト		
理想の街（目標）	<p>「元気なふるさと浅川を創生する」を目標に、浅川地区での地域資源の見直しと地域住民の意識の高揚を図り、地域活動への参画意欲を高めるため、浅川地区まちづくり計画を策定し、現在、各種事業を展開している。その事業の一環として地区内に生息が確認されている県指定希少種の蝶「ゴマシジミ」の保護・育成活動を地域住民と協働で実施し、「ふるさとの魅力を自然の豊かさで体験できる環境整備」の推進を図っていく。</p>		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	450人	69人
	各種事業やイベントの開催数	10件	4件
活動実績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 8月16日～9月5日 ゴマシジミ保護パトロール実施(密猟者対策として、早朝1時間2名体制) 2. 国、県環境保護関係者との合同会議(現地にて状況調査) 3. 地元浅川小学校にて、教師向けゴマシジミ生息についての講演会 4. 浅川小学校4年生のワレモコウ生育移植作業体験、及び生息地長野市霊園にて職員による移植作業 5. 浅川小学校4年、浅川チャレンジ(遠足)にて生息地霊園を訪問 		
績で でき な か っ た こ と	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶滅危惧種ゴマシジミの生息情報は、一般市民にはあまり知られていない。 2. ゴマシジミ生息、繁殖に対する対策は、手探りな状態である。 		
課 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶滅危惧種指定のゴマシジミの保護育成の具体的な計画が必要。 2. メジャー的に知られる必要性と保護活動員の確保 3. 知られるが故、密猟者や観察者による、現地の環境の破壊も心配 		




今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト		
理想の街	<p>「元気なふるさと浅川を創生する」を目標に、浅川地区での地域資源の見直しと地域住民の意識の高揚を図り、地域活動への参画意欲を高めるため、浅川地区まちづくり計画を策定し、現在、各種事業を展開している。その事業の一環として地区内に生息が確認されている県指定希少種の蝶「ゴマシジミ」の保護・育成活動を地域住民と協働で実施し、「ふるさとの魅力を自然の豊かさと体験できる環境整備」の推進を図っていく。また、ゴマシジミ情報をより広く発信していきたい。</p>		
街目標			
行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 温暖化による絶滅危惧種ゴマシジミの絶滅防止のための、保護、育成対策 2. 自然環境の見直しと、さらなる環境の向上(ワレモコウの増殖) 3. 人的な環境破壊の防止と対策(密猟者、現地環境変化への対応) 4. ゴマシジミ生息の重要性のアピールと保護活動の維持 		
画面数	指標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	69人	100人
目	各種事業やイベントの開催数	4件	10件
標			
		 <p>ゴマシジミ</p>	 <p>密猟を防ぐための パトロール活動</p>



これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	生態系豊かな水に親しめる川づくりプロジェクト (水環境保全)		
理想の街 (目標)	自然豊かにして清らかな川は、大気土壌と動的均衡を保ち生物の多様性に潤った街		
数値 目標 達成 状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	-		
	-		
活動 実績	長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び」への協力		
できなかったこと	河川環境水質改善を行いホタルの舞う親水型河川づくりプロジェクトが行き詰まり、生態系豊かな水に親しめる川づくりプロジェクトが休会になった。		
課題	生態系豊かな水に親しめる実行可能な川づくりプロジェクトに適合する事案の開発		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	生態系豊かな水に親しめる川づくりプロジェクト (水環境保全)		
	 		
理想の街	自然豊かにして清らかな川は、大気土壌と動的均衡を保ち生物の多様性に満ちた街		
目標	目標:生物多様性に向けた水士環境の改善を行い、遷移した植相の復元。 行動計画:プロジェクト候補地の選出と承認。整備計画と作業工程の立案。		
行動計画数値目標	指標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
	プロジェクト候補地の開発	1ヶ所	3ヶ所
	プロジェクト会員の増強	10人	30人

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト		
理想の街（目標）	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に、里山を里山らしく利用・保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域づくり・協力し支え合う地域・まち（令和4年活動計画より）		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	-		
活動実績	指標	目標値	令和3年度実績値
	-		
動き	コロナ禍で地域（区、住自協、公民館等）各種交流行事が中止、或いは縮小の中、閉じこもり・引きこもりがちな生活で何か心に元気が無く、生活意欲の低下をもたらす中、桜公園祭りは続けると宣言し、桜公園祭り（桜公園の拡充・手入れ作業を主に、花と交流を楽しむ活動）を続けたが、これは地域住民にとっても明るい気持ちを引き起こす活動となってきた。		
課題	コロナ禍の中でも継続したことで桜公園祭りの価値が見直されたが、一方で、内容的には一カ所に集めないことや、お互いの健康に配慮しての活動内容作業内容になったことで、第1回目2回目などと比較して自粛した部分があった。コロナ禍も次第に薄らぐ見通しもある中、活動内容の充実を図りたい。その一つとしては次年度から東屋の設置に取り組みたいこと。竹林を切り、桜を植え、より見応えのある桜公園にすること。		
課題	ある意味桜公園の活動は軌道に乗ってきた段階なので、桜公園も含めた里山のあり方に目を向けながら桜公園も含めて今後の夢・構想の意見交流をし、チームのあり方も今後に向けた内容に発展させることが課題と考える。		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名		田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト	
理想の街	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に、里山を里山らしく利用・保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域づくり・協力し支え合う地域・まち		
標			
・			
行	〔目標〕田中桜公園を中心に里山の利用を考え、田中桜公園も含めて里山の里山らしい利用拡大を目指す。〔行動計画〕		
動	1.数年掛けて竹林の伐採を進める。2.2年掛けて東屋の設置を進める。3.市観光課と協議しながら、里山の中腹に沿う水道道(三登山トレッキングコースの一部となっている)周辺の里山らしい利用整備と桜の植樹検討・推進		
計			
画			
数	指 標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	桜公園拡大・環境整備のため竹林の伐採作業	桜公園隣接竹林の繁茂2カ所延べ80人	伐採の完了と管理、延べ100人
目	親しみやすい桜公園整備のため東屋の設置計画推進・設置作業	設置場所の選定済み。他は不確定	東屋の完成と利用促進。延べ200人
標			
			

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	生ごみ削減・再生利用プロジェクト		  
理想の街(目)	1 市民一人一人が、地球環境をより良い形で後世に伝えるため、家庭系及び事業系のゴミの削減・再生利用に努め、CO2の排出量が以前と比べ大幅に減っているまち 2 地域ごとで多くの市民が、生ごみの減量化・再資源化について取り組み、有効活用しているまち 3 生ごみを可燃ゴミに出さず、全てリサイクルされ可燃ゴミは減少し、生命の循環を大切にしているまち		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値 (H29～R3)
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	1,500人	3,411人
	可燃ゴミに占める生ごみの割合	35%	38%(R2)
活動実績	①長野市の可燃ごみに占める生ごみの割合は、2020年に38%(内10%が食品ロス)であり純粋な生ごみの割合としては既にクリアされたといえる。 ②生ごみ減量実践講座(生ごみ堆肥化とその利用講座)は、安茂里と若槻の住民自治協議会が主催して行い、新年度の環境部員を中心に毎年更新して延べ250人以上が受講している。 ③2016年から始めたキッズ生ごみ農園クラブは、3家族10人で始めたが18家族38名が登録(内1企業10口含む)し増えている。(年会員制であり1家族が継続更新する期間は2～3年である。) 栽培種類は野菜だけでなく豆類、穀類にも栽培種を広げ、麦ストローの製作や菊芋とソルガムの利用方法を考案中である。また、F1でなく固定種の地産物を栽培するようにしている。 ④環境教育としての生ごみ削減は、幼少の頃からの生活体験としてみみずコンポストに触れることで、循環型社会を知る機会となるように「みみずの学校」プログラムを実践し始めた。移動可能な小型のみみずコンポスト「金子みみずちゃんの家」を使って、住民自治協議会や子供食堂の催しに出かけ、幼少児家庭に生ごみ堆肥で育てた野菜を配りながら説明している。⑤コロナ感染症対策によって外食機会が減り、内食が増えて生ごみの出る量も増えたので、生ごみの自家処理を試みる若者世代が増えてきた。それと同時に、生ごみの堆肥化とその利用が環境にやさしく健康にも良い生き方であると自覚し始め、生ごみ堆肥で育てた野菜や穀類に注目をするようになった。		
できなかったこと	①啓蒙活動としては、これまで行っていた信州環境フェアやながの環境フェアが、コロナ感染症の影響で開催中止か大幅な縮小により、展示・アンケート・生ごみ教室などのデモンストレーションが出来なくなり、一般市民へのアプローチ機会がなくなった。 ②キッズ生ごみ農園クラブで生産した野菜・麦・豆などを、朝市・軽トラ市・フェスタなどで展示販売することがコロナ感染症の影響で一部しか出来なかった。(販売することでチームの自主財源確保になっている)		
課題	①家庭系生ごみのうち食品ロスについては、消費期限がまだあるものは生ごみではなく食品として活用するために、子ども食堂などで利用するためのシステムが必要である。②長野市の推奨する生ごみの自家処理は、生ごみ堆肥化などで市民に助成しているが、減量に繋がっているのか検証する必要がある。③事業系生ごみの減量には、どのようなアプローチが適当かを模索している。		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名		生ごみ削減・再生利用プロジェクト	
理想の街	<p>1 市民一人一人が、地球環境をより良い形で後世に伝えるため、家庭系及び事業系生ごみの削減・再生利用に努め、CO2の排出量が以前と比べ大幅に減っているまち</p> <p>2 多くの市民が、地域ごとに生ごみの減量化・再生資源化に取り組み、有効活用しているまち</p> <p>3 生ごみは、可燃ゴミに出さずリサイクルされ、可燃ゴミに占める生ごみの量は大幅に減少し、食と農の循環を大切にしているまち</p>		
標目	<p>家庭系生ごみの有効な自家処理方法を策定し実践する。</p> <p>①生ごみ堆肥化基材「ビタピー5」の活用を通じて、生ごみの堆肥化とその利用が有効であることを市内全域に広げる。</p> <p>②若者世代が生ごみの堆肥化に取り組みたくなるようなプログラムを開発し、環境活動として継承する楽しみを模索する。</p> <p>子育て家族の市民を中心に生ごみ堆肥化とその利用を呼びかけ実践する。</p> <p>①キッズ生ごみ農園クラブの家族会員を30家族に増やし、会員とスタッフが協働で生ごみ堆肥と野菜など50品種以上を生産し分け合う。生ごみと一時生成物の受け入れ量を増やし、生ごみ堆肥の生産量8000を目標に、更なる野菜や穀類等の栽培に活用する。</p> <p>②ミズコンポストを活用して生ごみを減らすことを、幼少期から知ってもらうための環境教育プログラムを作成し、保育園や幼稚園で出前講座を行う。</p>		
実行	<p>生ごみ削減・再生利用プロジェクトとその活動を地域住民に呼びかける。</p> <p>①生ごみ減量実践講座(生ごみ堆肥化)を安茂里と若槻自治協議会以外の地域にも、ビタピー5を使って設けるよう働きかける。</p> <p>②生ごみ削減・再生利用の啓蒙活動を若者世代に繋げるため、各種環境団体のイベントなどに参加して働きかける。</p> <p>生ごみの堆肥化とその利用方法の実践活動を充実させる</p> <p>①キッズ生ごみ農園クラブの家族会員を増やすために、幼少児家庭に呼びかけ、生ごみ堆肥と野菜などを生産し分け合う。生ごみと一次生成物の受け入れ量を増やし、生ごみ堆肥の生産を更なる野菜や穀類等の栽培に活用する。</p> <p>②子供食堂の運営者に生ごみ堆肥化の活動に参加してもらう。利用者にはキッズ生ごみ農園クラブに加入してもらい、生ごみの堆肥化が食と農の循環であると実感してもらう。</p>		
動			
計			
画数			
値	指 標	現状: 令和3年度	目標: 令和8年度
目	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	546人	1000人
標	可燃ごみに占める生ごみの割合	38%	35%
			
	【ミズコンポストで生ごみ堆肥化】	【生ごみ堆肥をふるい掛け】	【生ごみ堆肥で育てた野菜などの展示販売】

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	太陽エネルギー普及促進プロジェクト		
理想の街（目標）	資源を大切にし、再生可能エネルギーである太陽エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力あるまち		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数（年間・延べ人数）	100人	
	イベントや出前講座数	2件	
活動実績	活動休止中のため、実績が無い状況です。休止の理由は、国内設置例から「太陽光発電」への否定的な見方も、世間には発生している点が大きいと考えます。		
できなかったこと	活動休止中のため、チームとしての目標がもてない状況であった。		
課題	太陽光発電を含め、国内設置事例から再生可能エネルギー活用の否定的な見解が世間一般に強くある点について、避けずにチーム内で意見交換し、チームとしての活動目標を意識的に持つていくことが必要。		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	太陽エネルギー普及促進プロジェクト		
理想の街	資源を大切にし、再生可能エネルギーである太陽エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力あるまち		
目標			
・			
行	<p>[目標] 本プロジェクトの活動再開と計画と実践 長野県では気候危機カーボンゼロを課題とし、屋根太陽光発電設備普及に尽力している事も考慮に入れながら、チームとしての目標・課題・活動を意識し進める。</p> <p>[行動計画]</p> <p>①チーム内での活動目標意見交換 ②チーム活動目標の設定 ③活動目標に基づく具体的取り組みの実行</p>		
動			
計			
画			
数	指 標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	活動再開		会議が定期的に行われ、イベント・活動を行っている。 延べ100人
目			
標			